

狂言学習始まる！

10月27日（木）は、今年度初回の山口耕道先生による狂言指導の日でした。最初の1時間は、5・6年生が山口耕道先生からご指導をいただきました。6年生は、今年度が狂言発表会の本番の年です。そして、5年生は、来年度（平荘小学校が閉校する年）が狂言発表会本番になります。5年生は、6年生の前向きな姿を体で感じながら、同じ空間で狂言学習の最初の時間をともに過ごしました。



5・6年生合同の狂言学習《10月27日（木）2校時》

山口耕道先生のお話より

狂言を演じる時には、自分の中で、その役をどうとらえるかが大事です。5年生、6年生になれば、「あの人は、～なんだ。」と性格付けをさせていただきますが、『役を演じる』ということは、そういう自分とは違った性格を演じるということです。例えば、ふだんは元気いっぱい活動的であっても、役がおとなしい人物であれば、おとなしく役を演じるということです。ふだんの自分とは違う人間を演じるということです。変化を楽しみにしています。

ふだん、おもしろいことをいう人だと言われていると、自分の中でおもしろいことを言わなければならないと思ってしまいます。私はそうでなければならぬと錯覚を起こしてしまいます。これでは、おもしろくありません。

役を演じることをきっかけに、新しい自分自身を発見してほしいです。そして、今までの自分を打ち破ってほしいです。狂言を通して、変身をする楽しさを勉強してほしいです。

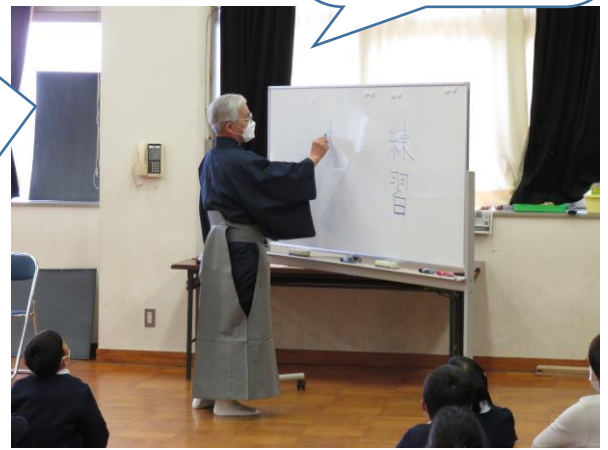
狂言は、想像力をもたないと観られません。狂言では、扇がいろいろな物に変身します。例えば、お酒の銚子（ちょうし）としてお酒を注ぎます。杯（さかずき）にもなります。



狂言（伝統芸能）では、『練習』（習いきたえる）という言葉は使いません。『稽古』と言います。「いにしえ（古）のこゝを調べる・探す」ことを意味しています。『練習』という言葉は、明治時代に外国から入ってきました。それ以前は、『稽古』と言っていました。

狂言の中で知りたいことは、自身で探してほしい・調べてほしいと思います。せっかくだから、山口先生にきいてみようと思ってほしいです。

質問する前に、自身で調べた方がよく身に付きます。Googleより事典の方がよく身に付くと思います。



狂言では、動作に言葉をつけることで、想像力を助けます。

狂言では、いろいろな人物が登場します。普通に元気な人の歩き方は、胸を張ってさっそうと歩きます。どうも調子が悪い人の歩き方は、目は伏し目がちで、歩幅も小さくなります。年を取ってきたら、腰をかがめて歩きます。

歩く時に、足を外向きにするか内向きにするかで歩幅が変わります。歩く速度で、男性か女性かを表現します。演じ方を工夫して表現します。

今年度、6年生は、観る側から演ずる側にかわります！

6年生のみなさん、今年は、演ずる側になります。狂言は、観ている人たちが想像することによって成立します。役所の役割は、観ている人たちに、より想像していただきやすいように演技をするということです。



言葉は、観ている人にきちんと伝えましょう。身体の動きは、その役の動きで、例えば山伏の役ならば、山伏に見えるように演じましょう。客席と舞台とが一体化することが大事です。5年生は来年が本番です。

猿唄を唄いました

5・6年生は、山口先生の猿唄を耳で聴きながら、後について一緒に『猿唄』を唄いました。途中から、山口先生と同じように身体で拍子をとる子が何人も出てきました。子どもたちの興味と意欲がよく伝わってきました。



今から『猿唄』を唄います。真似をしてください。みなさん、正座はできますか？背筋を伸ばして、口をしっかりと開けましょう。

『唄』は、気分が高揚した時に出てきます。自然と動きにリズムが生まれてきます。『唄』は、自分の身体からリズムが出てきたものだと思います。

和歌の「三十一文字」俳句の「五七五」、短歌の「五七五七七」は、ことばがリズムになって自分の身体から出てきたものです。

音楽は受け身ではなく、自分から発信していくものと捉えるといいでしょう。

何かを発信したいという気持ちは必ずあります。それを必ず表に出す、そのきっかけに、狂言をしてほしいです。

狂言を通じて、人様に観られる経験をしてほしいです。隠られない経験をしてほしいです。一挙手一投足、顔の表情の全てを観られているという経験をしてほしいです。

観られていることを意識すると、自分の顔の表情が豊かになります。人に観られるから格好良くなります。みんな一人一人の中にある格好良さ、観られることによって、みんな自身が変わります。緊張するけれども・・・

マスクをすると、思い切って笑えません。顔の表情は全て筋肉でできています。顔の筋肉を鍛えましょう。

顔の筋肉が表情を作ります。

笑う・泣く・怒る・驚く・びっくりする・・・こういうふだんの何気ない行為が表情を作っています。場所をわきまなければならぬこともあります。自分の感情をむき出しにしてもいいと思います。その場として、狂言の役の中で表現してほしいと思います。役を演ずる時は、感情を押し込めてはいけません。

狂言は、何と！650年続いている芸能です。おもしろくなかったら続きません。おもしろくなかったらたちまち消えるのが芸能の世界です。だからこそ、魅力があるのです。稽古しながら作っていくのです。世界各地に芸能があります。芸能は、人々の生活の中で、大事にされてきています。狂言は、形を変えずに続いている（650年）世界最古の芸能です。途中、江戸時代に、歌舞伎として形を変えて枝分かれをしました。日本語は言葉の数が多く、同音異義語があり、ことばの芸能が生まれやすいのが日本語です。